

大阪の筋と通と「あみだ池筋」

大阪には南北に「筋」、東西に「通」と呼ばれる道路が走っている。全国的にも有名なのが御堂筋であり、そのほか堺筋、四ツ橋筋、谷町筋などがある。通では中央大通、千日前通、長堀通などがある。これらの道路下には、地下鉄が通っており、大阪市民・観光客の足となっている。

西長堀にある大阪市立中央図書館には、長らくお世話になっている。地下鉄御堂筋線心斎橋で降り、長堀通を西に向かって歩くことにしている。長堀通の下には、長堀鶴見緑地線が通っているが、健康のために地下鉄は乗らない。長堀通は長堀川を埋め立てた道路である。歩き始めてすぐ四つ橋の交差点に着く。かつては4つの橋が架かっており、大阪の名所だったそうだ。

さらに西にしばらく進むと、白髪橋交差点だ。白髪の私には、なんだか親近感を感じさせる名前だ。交差点を南北に走るのが「あみだ池筋」である。図書館に通り始めた頃から、この筋の由来に興味をもった。筋違いしないようにすこし調べると、すぐ近くに「あみだ池」があり、そこからのネーミングのようである。写真のように、あみだ池筋はあまり広くないが、淀川の近くまで延びている。筋からあみだ池がすこしだけ見える。



じつは1年ほど前、あみだ池がある和光寺を訪ねたことがある。

レポートにも書いたが、一部を紹介しよう。

寺の案内から一和光寺は元禄11年(1698)、堀江新地開発のとき、智善上人が建立した。境内の池から善光寺(長野県)本尊ともいわれる阿弥陀如来が出現したことから、通称「阿弥陀池」ともいわれ、江戸時代から多くの人々に親しまれている。

あみだ池は平成18年度に大阪市指定文化財(史跡名勝天然記念物)に指定されている。大阪市の紹介から一和光寺境内の北側にある阿弥陀池は、仏教伝来の百済からもたらされた仏像が排仏により沈められた「難波の堀江」にあたるという伝承がある。和光寺が建立される以前から、仏教伝来の聖地として信仰を集め、大坂の名所のひとつとなっていた。



あみだ池筋は、こんな歴史のある阿弥陀池にまつわる名称であった。マンション・オフィスに囲まれ、味わいのない筋ではあるが、こんな歴史を考えながら歩いている。

(2019年5月5日)